



楊梅向延壽

延壽堂梓

下

浪枕江
延壽堂
編

久保田彦作

上



久保田彦作綴

上

A480
6



浪枕

江の島

新語

初編

上之巻

延壽堂梓

周延画

彦作綴

久保田

自序

仲街と籠で通るや沙干貝と七世三升が吟ふて能く深川の
情と穿ち八幡鐘のきぬく小樽下の迎ひ舟。あゝの隨意
現なく。ゆへへの夢と波枕。その江の島ふ思ひ奇く。歌舞妓
の種と抄録りの鳥居が畫風の繪島。その顛末と
七里が濱のいとまぐくと記載せしと丸鉄が梓よ

ちりをめで発見さんととてふよ任せ。
近頃流行三編讀切海鬼灯と
鳴したまふ婦幼衆のか伽草。ある
高汐打のま。濱の真砂の汐干貝。
眩らぎお拾ひあはると願ふのの

竹芝の漁夫 久保田彦作記

良波切上



48-8202



達磨三郎兵衛
遺娘後小繪島

野田藏之丞
後小生嶋新五郎

大貞
行印

初ら
かじが
あそ
海うも

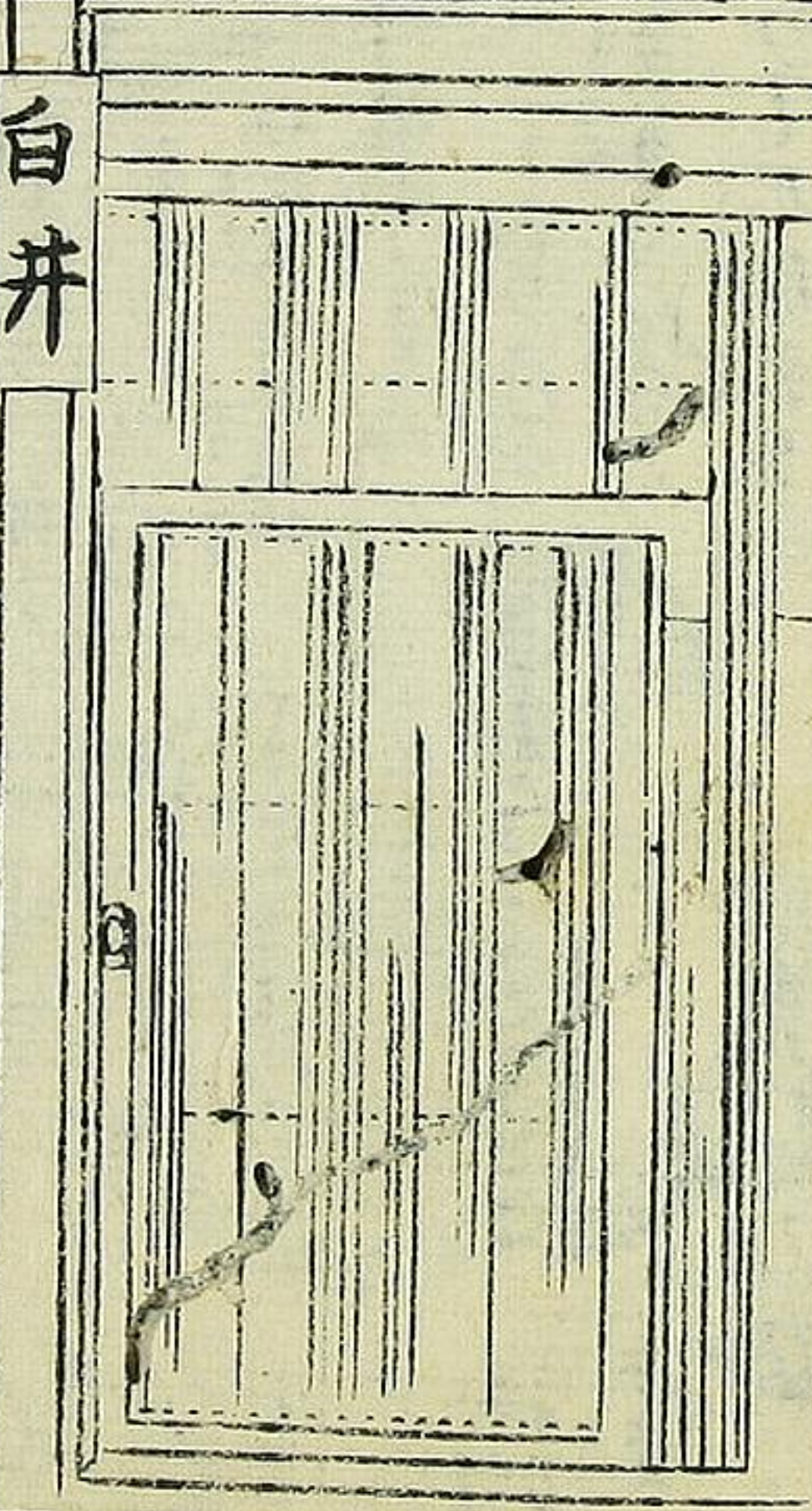
流人新五郎



よみそとの
今

昔は徳川の
將軍の
隊み所
ていとお
の獲り
洞とのま
海軍
不狗
を校
室の
築土へん

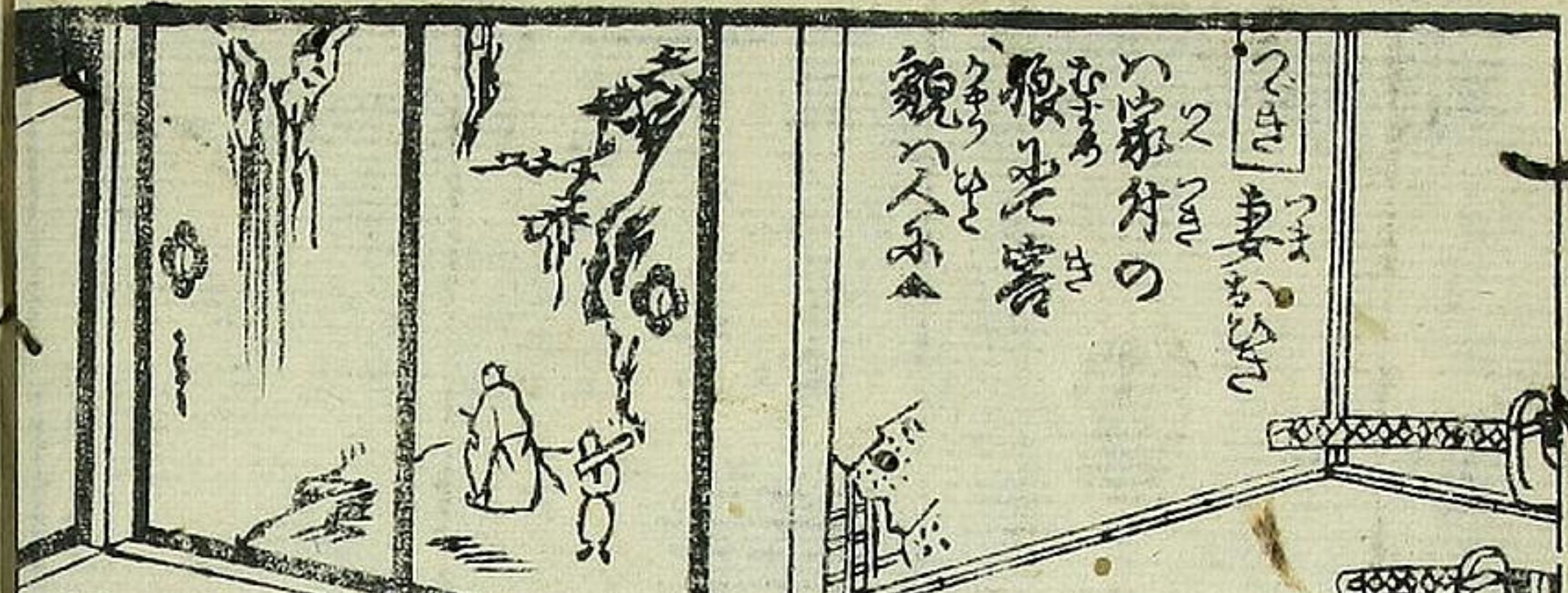
白井



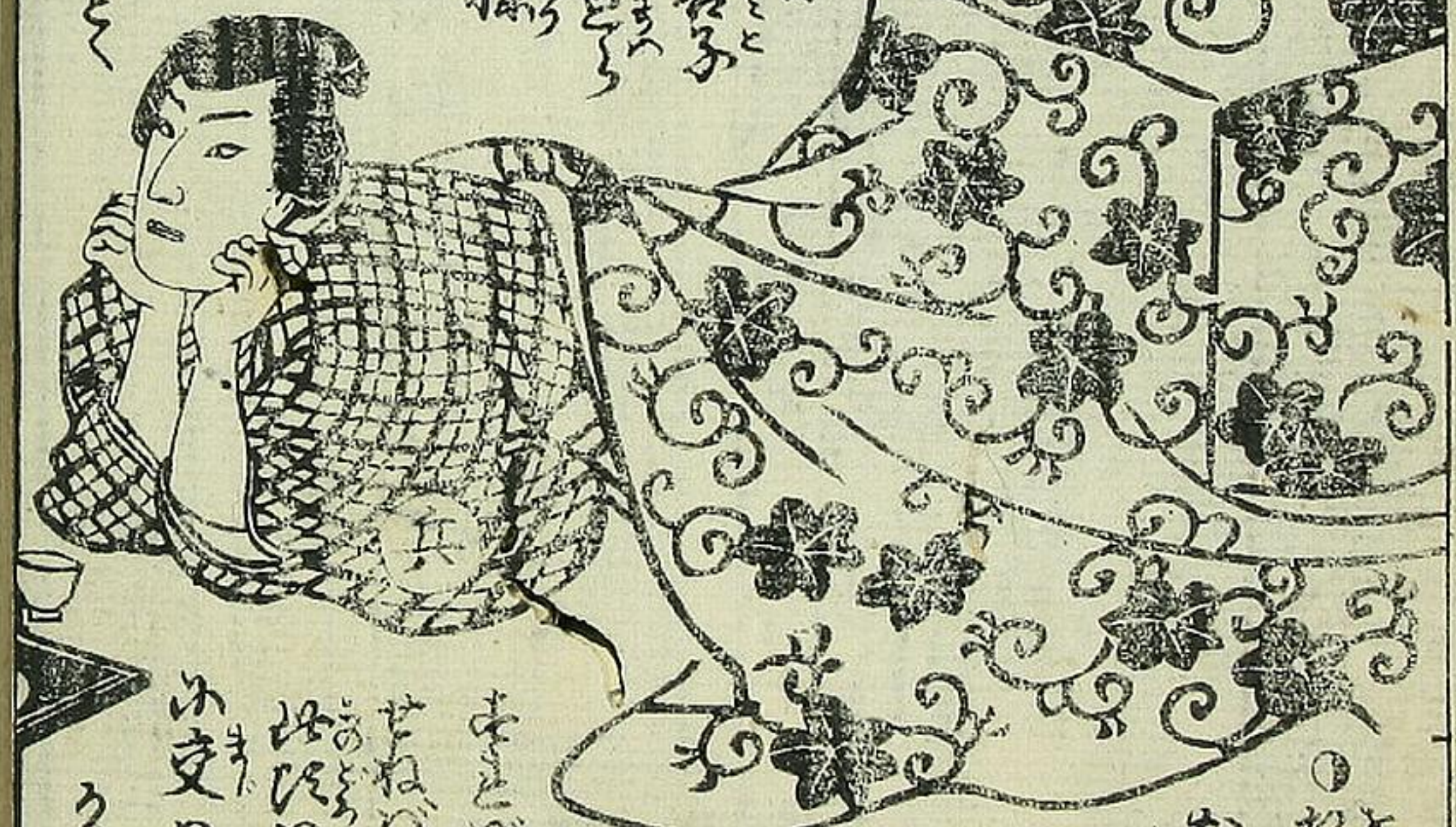
者あり
と小
と海
と米
と君
と人

と米
君の
と人
と米
君の
と人

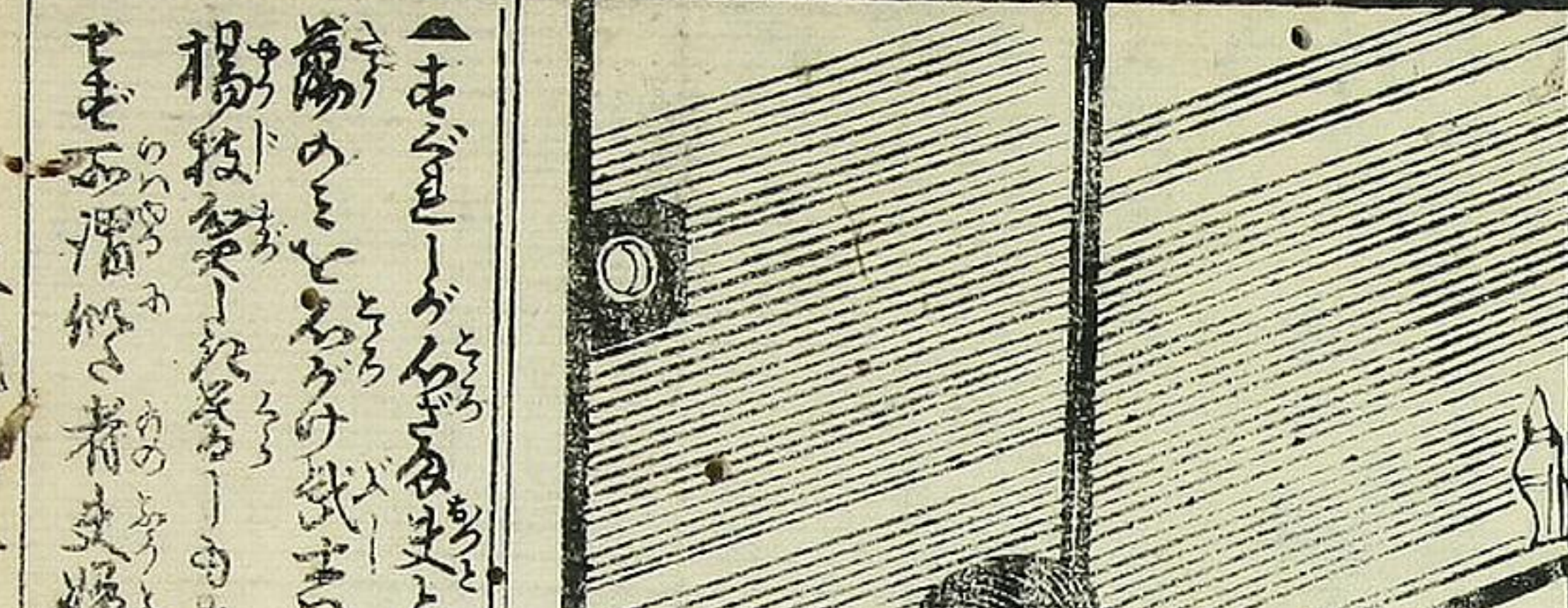
つま 妻おき
い家の
娘老
親のふ



おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの
おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの



おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの
おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの



おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの
おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの

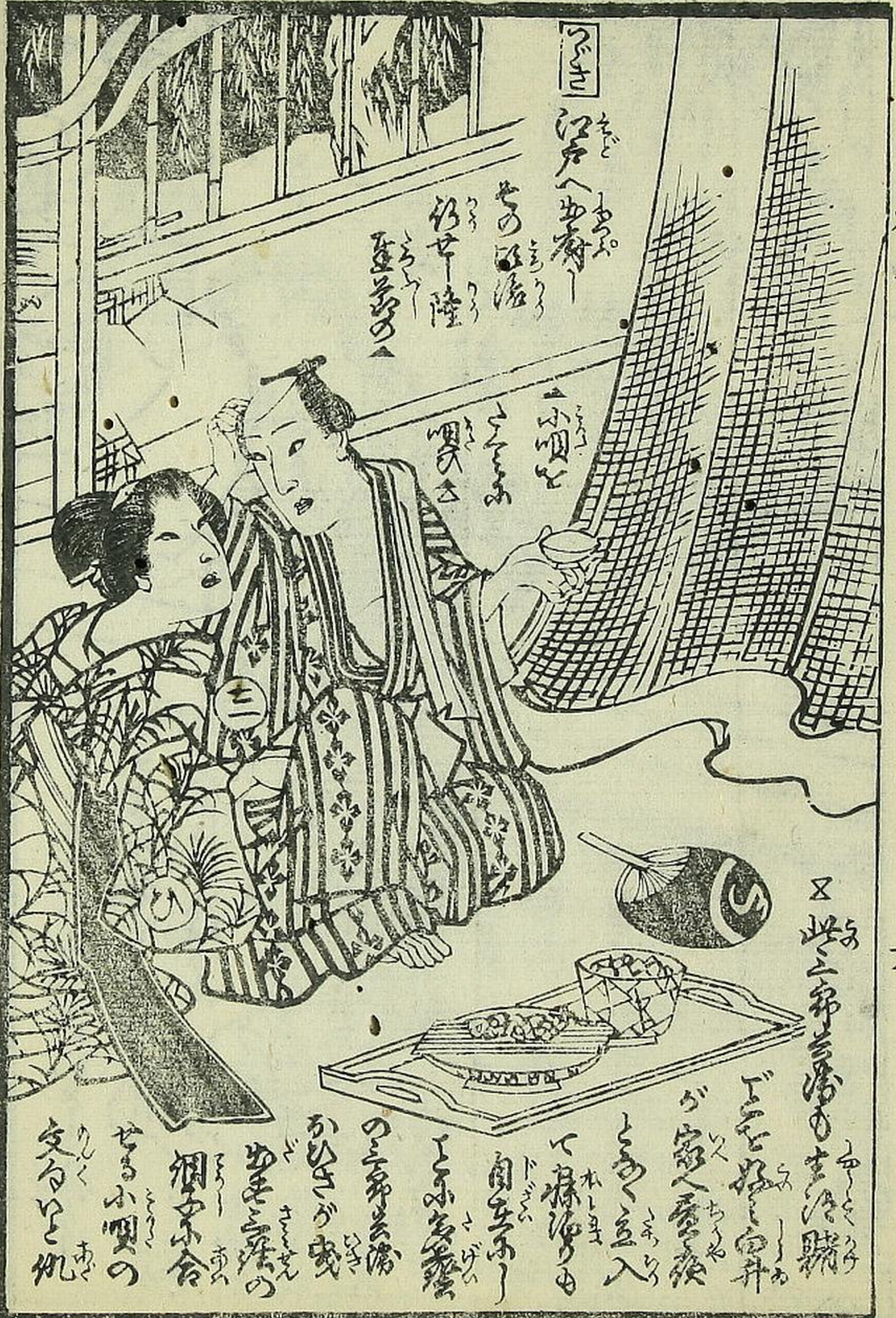
おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの
おのひておどびと雲ふたりのま
あまの美しうお鏡ひの
柳は小園に果るの



○ガキ坊主入
 物らたて業と
 直と名も異用
 のれおお御座おま似な
 ぞく一々客の席へも招き置ら
 れた多た一個の着者あつーが

△一々御座
 着者所多御
 云在命村相
 たる○

△お茶も出さ客のよたふ
 及多も通ふ末のさ
 茶をよ身を懐きを茶取の
 らんお茶も取り月日と茶
 肉あつとま助の茶あつと
 かの八支所の比屋尾の妙術
 のお中まが作へあつと
 一々御座夜の務あつと
 又御座一々客のよたふ

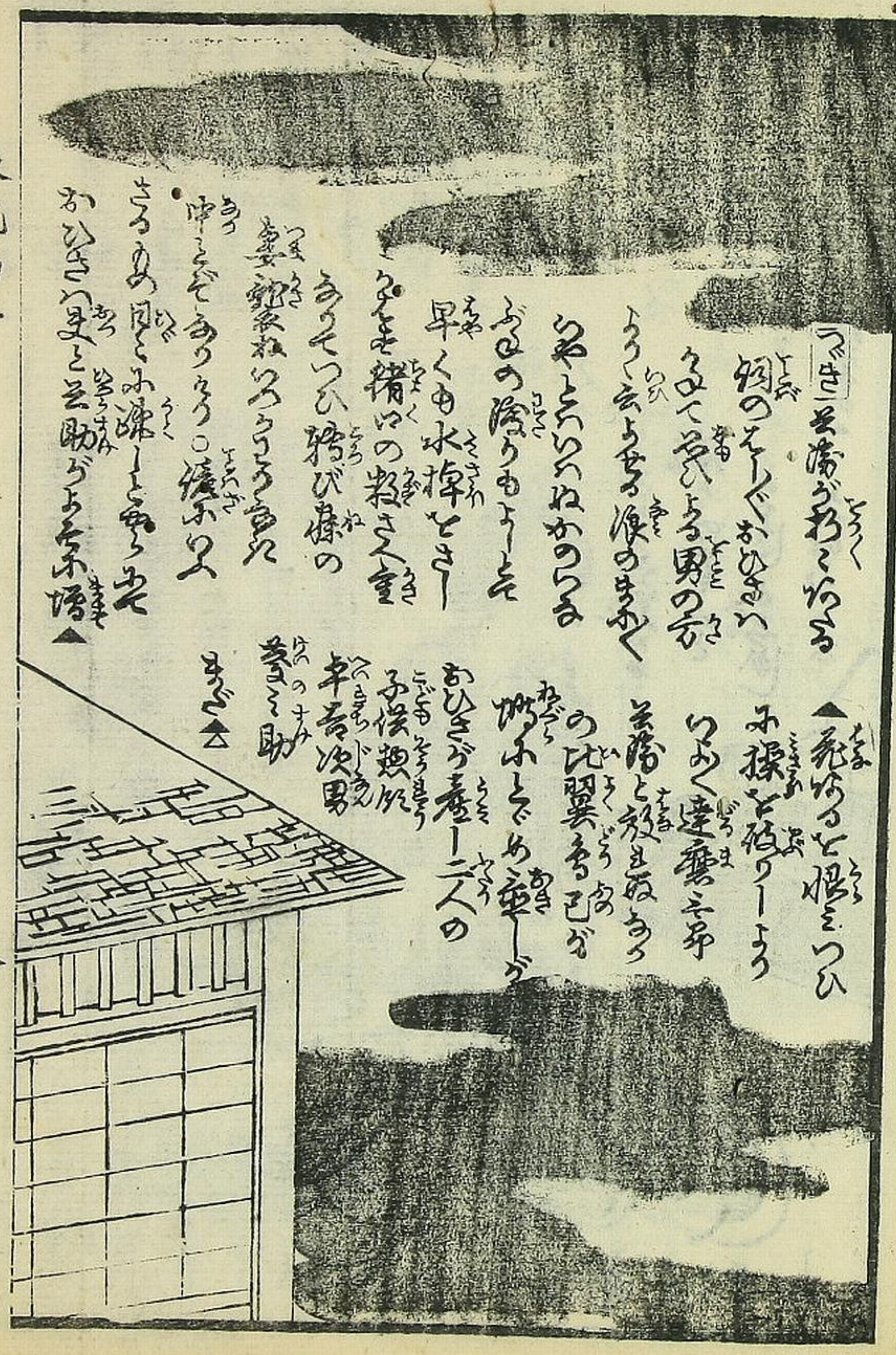


○江戸へお参り
 其の御座
 仍中陸
 五支の

△お参り
 其の御座
 仍中陸
 五支の

△此の御座の御座
 一々御座
 其の御座
 仍中陸
 五支の

△お参り
 其の御座
 仍中陸
 五支の
 一々御座
 其の御座
 仍中陸
 五支の

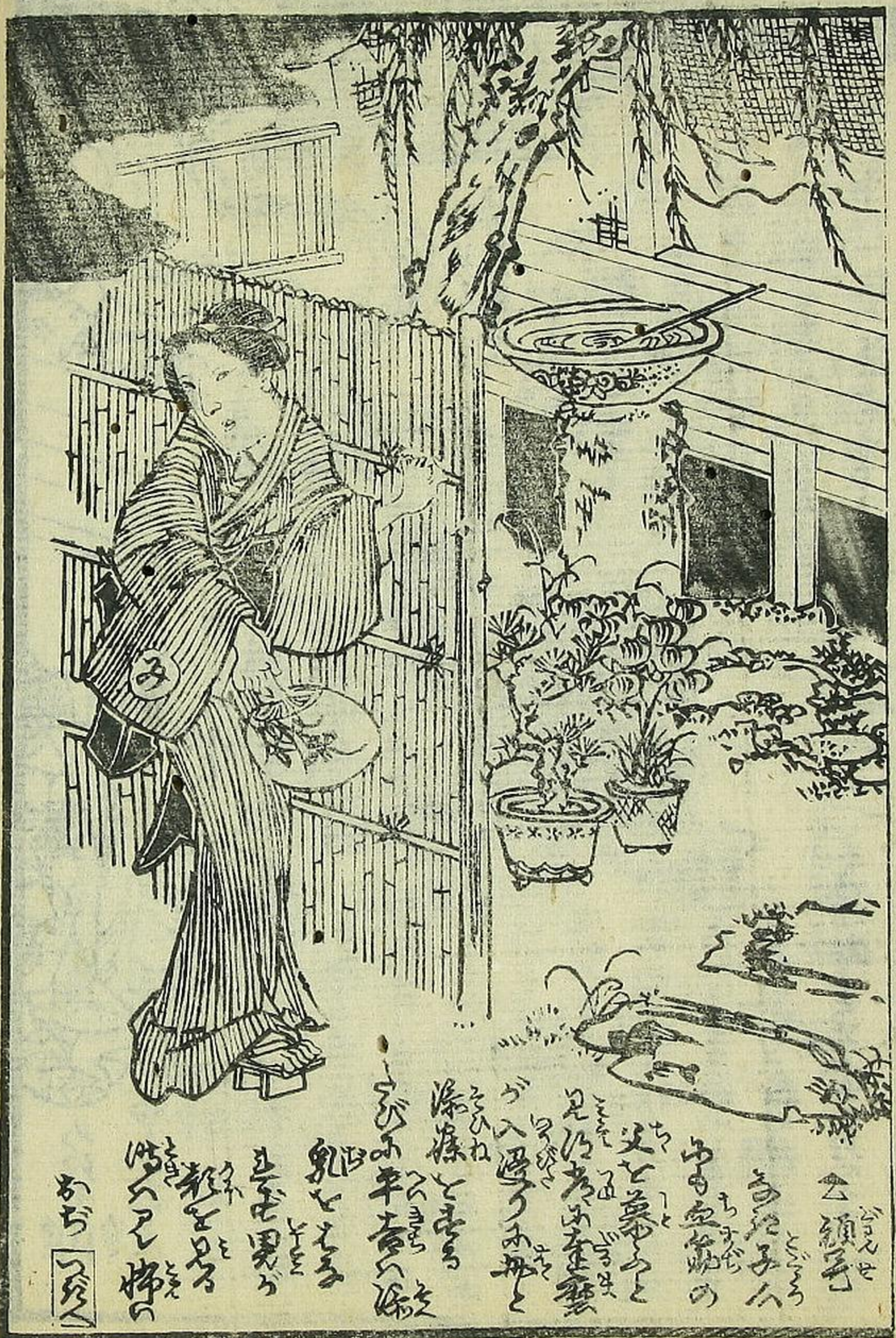


つまはあつちのつらさ
 物こそくおのひさし
 むくもくおのひさし
 早くの水掉とさ
 むくもくおのひさし
 早くの水掉とさ

花のつらさ
 小探と花のつらさ
 のつらさ
 小探と花のつらさ

見せり

瀬枕初上



瀬枕とつらさ
 小探と花のつらさ
 のつらさ
 小探と花のつらさ

七

浪枕江の島新語

九

ついで
夜更の
藤の
とす
とす

火の用心

火と火助どつ
火の用心



●換と聞けがらふ家と
か子あり
か子あり
か子あり
か子あり

△びうそま

あまのあま

あまのあま
あまのあま
あまのあま
あまのあま

あまのあま
あまのあま
あまのあま
あまのあま

彦作綴
周延画

彦作綴
周延画

艶娘毒蛇淵三編

柳水亭種清作
揚洲周延画

あまのあま
あまのあま
あまのあま
あまのあま

浪枕江の島新語三編

久保田彦作編輯
揚洲周延画

あまのあま
あまのあま
あまのあま
あまのあま

事情明治太平記

村井静馬著
鮮齋永濯画

伏見より熊本秋に至る十五編
十六編より鹿兒島に至る

○初編ハ伏見戦争を始めとす
御一新以来の事情明細に記す居るが
人情開化一目をみる
正し平かな付繪入みして婦女子ふも解しむを綴りし書あり

書肆問屋
地本問屋
延壽堂
屋丸小林鉄次郎版元

東京日本橋通二丁目十三番地





元祖團十郎大平
 杉山半六があらぬ
 横死ととげたる
 團と今様の風よ
 画きしあり此と
 宝永忠信物語
 いと委一

かゝぬ平太の目と
 さぬ一アおとあり
 のをさぬうとワツ
 とまこのやほ
 ぐさぬぞおもむ



つき 相違いなるほどそとふつ
 ておか久との目そぬい実ふ
 みだあり二人の子供いり
 せりと附房みひつて糸
 と足と平太の助の
 二人とも布堂のひつて
 そのまふまむく
 眠るはてのうら
 不審とよび
 かきせむ
 小中



いだしで抱き
 あげしと
 女抱しとまて
 ちさぬいどえ
 りつるういふ
 ぶらぶらふりき
 とまけぬおぶと
 目減らすアおまん
 りつる来る怖のあらまんと
 坊とあてどと久のうら
 通ぐ血まぢの別と
 かりひあてアと泣
 小由初らぬ松の平太

△上その
 見る用ゆら
 した瀧りあか
 ぬいぬいとあひ
 やあちを
 多く尋ねるふ
 目かたの
 のて性
 怪ふ



つぎ 牛羽豆餅
 揚子湯の餅ひ
 りきと餅まひよ
 ろく 足先冷
 末は井上糸由
 りてのませどいと
 俗切多 藤家のく
 早速 助ふうち
 向ひと
 家 盛實 明神
 内と妻
 をうり小姓せをかく不れ

延宝六年五月某
 の日本府の茅屋小
 江島誕生ま

あつ藤家の井上とを
 理世とよする者兄の

△家付の血筋
 多きともの
 僕まう小
 じまう家
 なるしま出
 聖の比色尾
 あたまと赤
 引ら妻ふせん



締老家を印小
 久とわが
 かる不坊
 毎用入とむ
 三軍を海と
 り者とわいてよろうぬ
 果しとをさる男とそのふ二人の子
 借と並ありみ我家を持て
 欠落せし一階とて由あるなり
 あととえと仇せは個う教と
 家へとての寄分を身と持

つと
 妻あひさぐ家出の
 といと向ひ
 〇その海から
 改んの甲まふえせうけ
 かの物術と引とるふ
 顔うとんと痛め
 上家に入りて生
 二人の子供と引
 あり
 とまるふ由
 毎後徳うは
 と種ち、井

浪枕江の島新語

九



つぎ ちてらうせーが愛した
 中にも遊ばしといひて
 かひさううき屋といひ
 ぬ月へまわくも勝
 月あて

井
 ちせらぬうかがる
 あぞらふ男の
 気と様とそかのふかぢ
 ちとねとまぞいへ

ちをさるその
 目と坊屋の

ちりくらの成の
 田ふあにくく久
 けつた玉の
 ちのふと
 ちりくらの
 ちりくらの
 ちりくらの

艶娘毒蛇洲

三編
 柳水亭種清作
 揚洲周延画

ちりくらの

浪枕江の島新語

三編
 久保田彦作編輯
 揚洲周延画

ちりくらの

事情明治太平記

村井静馬著
 伏見より 熊本林秋に至る十五編
 鮮齋永濯画 十六編より 鹿兒島に至る

○初編ハ伏見戦争を始め、くく上野東叡山焼討より其外
 御一新以来の事情明細に記す居るが、人情開化目まぐる
 ち平がふ付繪入みて婦女子も解やせく綴り、書あり

書肆問屋

東京日本橋通三丁目十三番地
 延壽堂 屋丸 小林鉄次郎版元





10

15

20

25

30

良九四下



中の巻よりく 光陰小関ちなく

そはかひきく汗史と帝三湯

とえや六歳の素物とよみ

秀一脱小おとるも六才と

我子ゆなると父冊

由意電と様

よ花よとや

ねども女ふいふふたど

茶かゆ深山本の曲りて由

その技ありのてむら〜

▲おちのいやしく母のなを

傍つむりの膝と能

いとむら〜たの〜あま

常貌人の備まるの

ち公志人由

珍羽

子候か

らゆ〜

人のころと紐ひけゆごも

一七歳と糸を細く大人へ

及老ぬ利茶の

らゆ〜

A400
P



江の

鳥

新

初

下

久保田

揚海

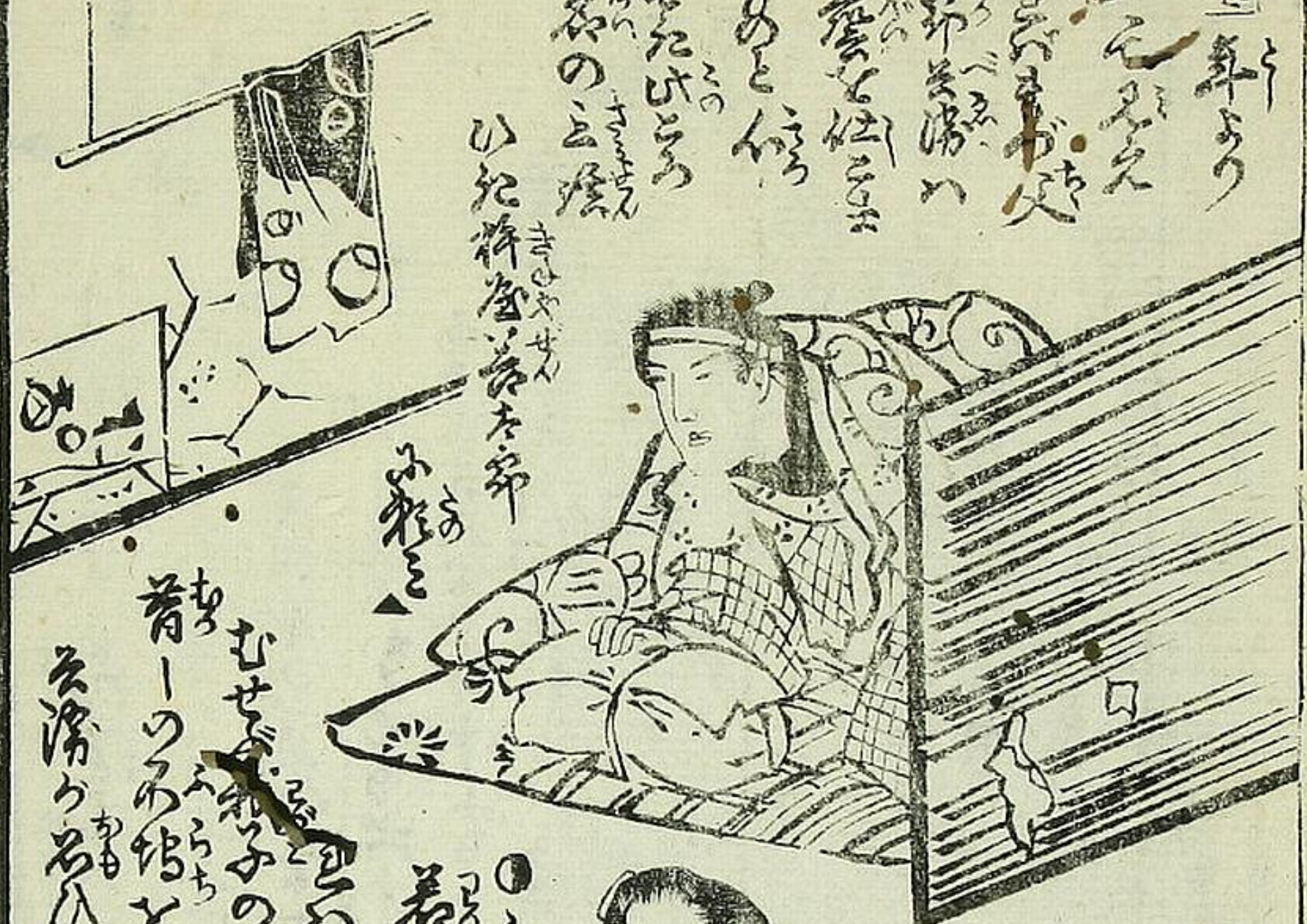
正画

正

正

48-8204

つぎ年より
生かすをえ
と命を清い
に命を清い
んめとん
おまたげご
みるのよ



ひたすをを帝
みね

むせを
昔一の
ま清りあひり
まふら
おぼ



みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目
みねり目

▲生かす満り
後清い
佐平次が分
子と色
も悪の徳と
いひの
まは
年次
いひの
後清い
佐平次が分
子と色
も悪の徳と
いひの
まは
年次
いひの



若芳の
いひの
まは
年次
いひの
後清い
佐平次が分
子と色
も悪の徳と
いひの
まは
年次
いひの





色づきぬまら
 ねむるまら
 らむあふのあぢせん
 りをよとらひつ群衆
 由そつくまら家の門は
 ぬたどあけるその時
 ままきつと名届け
 かの侍ひのちるも
 多とまきりぬ早免
 この人おのれあつる
 券二へん小委の解べ

久保田彦作綴 楊洲周延画

梅屋治 十三日 四月廿日
 芝居愛宕下町四丁目番地
 編輯久保田彦作

小倉山 青樹榮 昔日日新話編 五 泉菴亭是正作 櫻齋房種画

算方法教授書 全

鼠裱甲子真聞編 三 泉菴亭是正作 櫻齋房種画

人民心携交際義務 同

延壽百人一首 全

大日本海陸全圖 銅版 全

地本錦繪問屋 東京日本橋通三丁目十三番地 延壽堂 小九屋鉄次郎版元

白縫物譚 豊國 故入種自稿種彦作 泉菴菊壽堂主人の今 日之新聞社にて後編と 出版するの暇に於て 氏より乞て絶意より一層 益入引つた出版者着書方 陸續に求むと伏て希ふ 六十四編出版 板元鉄次郎

010190516801



古蹟探る
生島遠流記

新奇又倣ふ
歌舞伎新報

浪枕江の
島物語

久保田彦作編輯
揚洲周延畫

延壽堂梓

